

# 二〇二六年度 三田学園中学校入学試験問題

## 前期B日程 国 語

〈注意〉 各問題の解答はすべて解答用紙に書き入れなさい。

※出題の都合上、漢字にふりがなをふる、漢字をひらがなにするなど、本文の一部に改変を行っています。

※特に指示のない限り、字数制限のある問題では句読点や記号も一字として数えます。

受験番号	
------	--

一、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「悪口はどうして悪いの？」と聞かれたとき、もっともシンプルな答えは、「人を傷つけるから」というものでしょう。理由なく人を傷つけることは悪いことで、悪口も、足で蹴るといった身体的暴力と同じように人を傷つけるので、悪口は悪い、という発想です。

① 殴る、蹴るとは違い、悪口によって、血が出たり、顔がはれたりするわけではありませんが、場合によってはそれと同じくらいか、あるいはそれ以上の精神的なダメージを受けることがあります。結局、苦痛というのは脳の活動によって生み出され、身体の痛みも心の痛みも、似たような脳の働きに由来すると考えられています。身体が痛いことが悪いなら、心が痛いことももちろん悪いわけです。

子どものとき、「そんなこと言われたら傷つくでしょ、嫌な気持ちになるでしょ」と、注意されたことはないでしょうか。【a】、大きくなってからも、「他者の気持ちになって行動しなさい」と言い聞かされたことはないでしょうか。私たちは人を傷つけることを避けようとしています。

「悪口が悪いのは人を傷つけるから」という考えは、とても常識的ですが、悪口の悪さをそれほどうまく説明できません。まず、悪口以外にも、人を傷つけることは、精神的なダメージを与えてしまう発言がたくさんあります。たとえば、「残念ながら不合格です」「私たち別れよう」のように、自分の期待や希望にそぐわないことを言われてしまうことは、誰にでもあります。そして、それによって、ときには立ち直れないほどに深く傷ついてしまうことすらあるでしょう。しかし、こうした発言は、もちろん悪口ではありません。ですので、ことばが人を傷つけるからといって、悪口になるとは限りません。

このポイントを、論理的なことばを使って言いかえてみると、「人を傷つけることは悪口の十分条件ではない」となります。ここで十分条件の例をあげておきます。ある人が自分の卒業証書を受け取っていることは、その人が卒業したことの十分条件です。自分の卒業証書があることが、その人が卒業していることを十分に示しています。一方、出席日数が足りていることは、卒業の十分条件ではありません。たとえば、皆勤賞かいきんしょうをもらっていても、卒業するための他の条件を満たしていないかもしれません。すべてのテストが0点だと、卒業させてもらえない学校が多いでしょう。

ついでに、必要条件も説明しておきます。一定の出席日数があることは、卒業の十分条件ではありませんが、必要条件です。ある程度は出席することが卒業するために必要なわけです。一方、卒業式に出席することは、卒業するために必要ではありません。風邪かぜをひいて卒業式に出席できなくても、卒業できなくなるわけではありません。卒業式への出席は、卒業の必要条件ではないのです。

また、人を傷つけることが、悪口の必要条件でないこともすぐに分かります。【b】、人を傷つけなくても悪口になる可能性があるのです。② 言っていることが誰がどう聞いても悪口だが、言われた本人はまったく傷ついていない例を考えることは簡単です。今から架空の例を出してみます。よければ、みなさんも自分の例を考えてみてください。

Aさんは同じ部活の先輩のBさんが大好きだ。でも、AさんはBさんときき合いたいとか、結婚けっこんしたいとか、そのような願望があるわけではなく、アイドルやミュージシャンのファンのような感覚を持っている。AさんとはにかくBさんに会いたい、できるだけ一緒にいたい、と願っている。

る。

一方、BさんはAさんのことを邪魔だと思っていて、「Aはうざい」「Aはきもい」としよっちゅう周りに伝えている。ときには、「きも。帰れよ」などとAさん本人に向かってさえ言っている。

Aさんはしかし、そのことが気にならない。むしろ、Bさんが自分のことを考えてくれていると思うと、嬉しくなる。目を合わせて、「うざい」とか言ってくれるのを楽しみにしている。

Bさんのことは、シンプルに悪口だと思う人が多いでしょう。【c】、Aさんは、それをまったく気にしていないどころか、むしろ喜んでくれます。です、人を傷つけなくてもことは悪口になります。

ひよっとしたら、Aさんは傷ついていないので、Bさんの言っていることは悪口ではない、と考える人もいるかもしれません。では、次のような例はどうでしょうか。

人間は、虐待といった強烈なストレスが与えられたとき、自分を守るために身体から心を切り離すことがあります。ぼーっとする、夢の中にいる気がする、自分の体験や感情を覚えていない、感覚が麻痺する、といった状態になります。たとえば、すごくいじめられている人が、一種の自己防衛として、何を言われても何も感じなくなってしまうとします。感覚が麻痺しているのだから、その人に何を言っても悪口にはならないのでしょうか。そんなことはないでしょう。たとえ、そこでまたまた傷ついていなかったとしても、痛みも何も感じなかったとしても、悪口は悪口だと私たちは考えます。

【d】、人が傷つくかどうかや、不快に思うかどうか、という基準ばかりに焦点を当てることで不都合も生じます。いじめられている側が、「やめろバカ!」と、多少乱暴なことは使って、自分の身を守ろうとします。そのとき、そのことはづかいは他人に不快感を与えるからやめましょう、などといじめられている側を注意したとすると、これほど不公平なことはいくつもあるでしょう。

似たようなことは、より広い社会におけるやりとりのの中にも見られます。女性や黒人といった、差別されている人たちが、差別的な社会の仕組みに対して批判の声をあげたとき、その批判の内容ではなく、ことばづかいや言い方に論点をそらせて、黙らせようとする反応があります。「乱暴な発言なので怖いです」「そんな言い方では誰も協力してくれませんか」といったものは、<sup>③</sup>「トーン・ポリッシング」(tonepolishing 口調の取り締まり)と呼ばれています。

ぴしっと厳しく叱られたり、批判されたりしたら、言われた側は、たとえ批判されるだけの十分な理由があると自覚していても、不快に感じたり、居心地が悪くなったりするものです。ことばの悪さが、不快さや痛みのような感覚だけですべて説明されてしまうなら、まっとうな説教ですら悪口になってしまいますが、それはおかしい結論です。

したがって、人を傷つけるから悪口は悪いという発想で、悪口を理解することはできないのです。

(和泉悠『悪口ってなんだろう』より)

問一 ——— 部①「殴る、蹴るとは違い」とありますが、「悪口」と「殴る、蹴る」の同じ部分と違う部分の説明として最も適当なものを次の

中から選び、記号で答えなさい。

ア 人を傷つけることは同じだが、肉体的に傷つけるのが「殴る、蹴る」で、精神的に傷つけるのが「悪口」。

イ 人を傷つけることは同じだが、相手を傷つけるのが「殴る、蹴る」で、自分も相手も傷つけるのが「悪口」。

ウ 脳の働きの由来する行動という点は同じだが、肉体的に傷つけるのが「殴る、蹴る」で、精神的に傷つけるのが「悪口」。

エ 脳の働きの由来する行動という点は同じだが、相手を傷つけるのが「殴る、蹴る」で、自分も相手も傷つけるのが「悪口」。

問二 空らん【a】 【d】に入る言葉として、最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を

二度以上用いてはいけません。

ア むしろ    イ しかし    ウ つまり    エ あるいは

問三 ——— 部②「言っていることが誰がどう聞いても悪口だが、言われた本人はまったく傷ついていない例」とありますが、その例にあたる

部分を本文中から二つぬき出し、最初と最後の五字で答えなさい。

問四 ——— 部③「トーン・ポリッシング」について、

i 「トーン・ポリッシング」とはどのような行為ですか。説明しなさい。

ii 「トーン・ポリッシング」の具体例として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「その意見は、事実に基づいていないから、正しいデータを示してよ。」

イ 「感情的になる前に、問題が起こった背景を説明してよ。」

ウ 「私はその考えに賛成できない。あなたが自分の利益しか考えていないから。」

エ 「『ムカつく』と言われたら聞きたくなくなるよ。もっと冷静になってよ。」

## 問五

~~~~部「十分条件」「必要条件」について次の説明を読んで、後のⅠ～Ⅳの関係は後のア～エのどの関係になっていますか。それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上用いてはいけません。

### 説明

必要条件…「Aであるためには、少なくともBである必要がある」というとき、BはAの「必要条件」。  
十分条件…「Bであれば、必ずAである」というとき、BはAの「十分条件」。

例 A「卒業」とB「出席日数が足りている」ことの関係

ア BはAの必要条件……「卒業」するためには、少なくとも「出席日数が足りている」必要がある。

イ BはAの十分条件……「出席日数が足りている」のであれば、必ず「卒業」している。

ウ 必要条件であり十分条件でもある……「卒業」するためには、少なくとも「出席日数が足りている」必要がある上に、「出席日数が足りている」と、必ず「卒業」している。

エ 必要条件でなく十分条件でもない

答え（ア）

Ⅰ A「試験を受ける」とB「試験に合格する」ことの関係

Ⅱ A「犬である」とB「動物である」ことの関係

Ⅲ A「冬である」とB「雪が降る」ことの関係

Ⅳ A「冷蔵庫が空っぽである」とB「冷蔵庫の中に何も入っていない」ことの関係

ア BはAの必要条件

イ BはAの十分条件

ウ 必要条件であり十分条件でもある

エ 必要条件でなく十分条件でもない

問六 ……部「悪口の悪さをそれほどうまく説明できません」とありますが、「うまく説明でき」ないのはなぜですか、本文全体をふまえて

説明しなさい。

二、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

白い天井、蛍光灯の眩しい光、ひどい絶望感。

そして、続いている右手の鋭い痛み。頭が、ともに働かないからか、言葉はぶつ切りで浮かんてくる。

僕は身体を起こそうとした。無意識に突いた右手にまた鋭い痛みが走り、声をあげた。痛みにも目を向けると、ギプスが巻かれていた。ほんのわずかに指を動かすだけで声をあげてしまう。

すべて、本当のことだったのだ。

僕は病院のベッドに寝かされていた。カーテンで仕切られた狭い空間で目を覚ました。体を起こそうとすると背中や肩に痛みが走った。そして、右手には夢の中と同じ痛みが続いている。それなのに、僕が一番強く感じているのは、疲れだった。ずいぶん、久しぶりに深く眠った感覚がある。

痛みをごまかすために、大きなため息をつくともカーテンが開いた。

「霜介、起きたのか」

そこには叔父がいた。久しぶりに会う叔父は、白髪が増えていてすぐには誰か分からなかった。気を遣うようにこちらに微笑んだ。僕はその

笑顔が苦手だった。

「ああ、もう大丈夫」と身体を起こそうとすると、全身に鋭い痛みが走った。

「そのままにしている。いま先生を呼んでくる」

そして、またカーテンは閉められて独りぼっちになった。叔父がいるということは、余程のことが起きたのだと分かった。右手は見えない。動かしてみた後、ため息をついた。身体も起こせない。そして、ここが正確には何処かも分からない。何よりとても疲れていて眠い。しばらくして、叔父と医師がやってくると説明が始まった。

そのどれも予測した通りの内容だった。

② 右手は骨折、背骨やあばらも罅が入っている。脳はこれから検査、何よりひどく疲れていたようで、あれから二日間ずっと眠り続けていたらしい。

「学園祭の片付けがあるから、いまから戻ってもいいですか」と若い医師に訊ねると、



「起き上げれるならどうぞ」と言われた。つまり、「X」だということだ。彼は僕の発言に気分を悪くしたようだった。このまま検査のため数日、入院しなければならぬらしい。説明がすべて終わると、叔父と二人きりになった。

顔を合わせるの、ずいぶん久しぶりだった。一年近く会っていない。

二人で向き合うと、<sup>③</sup>言葉が出てこない。<sup>A</sup>他人行儀な挨拶も、世間話もないから、大事なことしか話せない。するとお互いの言葉が消えてしまう。大事なことを、僕が素直に話せないからだ。

両親が亡くなった後、僕を引き取り面倒を見てくれたのに、僕は彼と叔母さんのいる家には帰らなかった。両親と暮らしていた家に引きこもり、何もしない時間を過ごし、壁を見つめていた。そして、僕の進路を半ば強制的に叔父は決めた。いまの大学に進学させることだ。そのことを恨んではいない。むしろ感謝しているくらいだ。だが、彼はそう思っていない。彼は僕の面倒を上手く見られなかったことに負い目を感じている。

「そんなことは気にしないでいい。僕は感謝しているんだ」と伝えられれば、それで終わるはずなのに、それは言えない。

叔父と顔を合わせると、両親が亡くなったころのことを強く思い出す。そのことでまた無気力になってしまふのが怖くて、彼を避け続けていた。嫌いではない。ただ苦手だった。

ふいに目が合うと、力なく微笑んだ。やはり言葉はなかった。責任を感じている、と顔に書いてあった。責任を感じることの辛さも、少しだけ理解できるようになった。どんな小さなものでも、責任を負わなければ、彼の微笑みは分からなかったかもしれない。

僕は、その笑みに少しだけ父の面影を感じていた。よく似た兄弟だったから、そう思ったのだろうか。それだけに彼の感じていることが手に取るようにわかる。それが、また、嫌だった。身体中が痛くて、肩も重く、クタクタだったけれど、それよりも、この気まずさのほうがいたたまれない。

どうすれば、この状態を抜け出せるのかと頭をひねりながら、なぜだか古前君のことが頭に浮かんた。彼ならどうするだろう。彼なら、いまの僕と叔父のような関係を世界中の誰とも築かないだろう。彼は、僕がとても落ち込んでいるときも、厚かましい話やどうでもいい話をして関わってきた。でもそれが彼なりの優しさなのだと三年経つと分かってきた。

彼ならいまどんな言葉を発するだろうと思ったとき、<sup>④</sup>僕が一番苦手なことを思いついた。

苦手なことをやってみようと思ったのだ。どうせボロボロだし失敗しても何も失うものはない。

僕は、世間話をしてみようと思った。

「あのさ」

と、僕が口を開くと、彼はまばたきをして姿勢を起こした。僕が話しかけるとは思っていなかったみたいだ。

「この前、墓参りしたんだ」

「霜介が……、か？」

他に誰がいるというのだろう。

だが、僕のこれまでの行動からは絶対に想像できない言葉が飛び出したのは間違いない。僕は先日、椎葉先生とあの場所に行くまで一度も足を運ばなかったのだ。彼が何度も誘ってくれたにもかかわらず、だ。彼を傷つけただろうかと思いつつも、話を続けた。これは世間話なのだ。

「いいところだね、あそこ。綺麗なお寺の裏で、空気が澄んでいて、花もきちんと供えられてあった」

「ああ。そうだな。お寺さんがよくしてくれているんだ。私も毎月行っている」

知らなかった。あの美しさは叔父が保ってくれていたものなのだろうか。

「ありがとう」と自然に言葉が零れ、彼が止まった。

会話が途切れた。

⑤なぜだか、叔父が変なものを見る目でこちらを見ていた。訳がわからず、彼を見つめた。そして、瞳がゆっくりと潤んでいくのを見ていた。僕は世間話の内容を振り返っていた。何もない。当たり前のことを話したただけ。

だが、たった一つだけこれまで叔父に言ったことのない言葉を伝えていたことに気づいた。

「ありがとう」

彼は、僕がそう言ったことに驚いているのだ。

僕はやはり間の抜けたところがある。そんなささいな言葉さえ、ずっと伝えてこなかったのだ。ずっとそう思っていたのに。

何も決められないときに、僕の進路を決めてくれたのも叔父だった。

いまのマンションを用意してくれたのも、僕がいつでも帰ってこられるように実家の手入れをしてくれているのも、両親が亡くなった後、彼が残したすべての問題を引き継いでくれたのも叔父だった。

それなのに、僕は何も言えなかったのだ。それどころか、彼にずっと責任を感じさせてしまっていた。それが、まずいことなのだと、気づいてしまった。ふいに飛び出した「ありがとう」のせいだ。数年前の僕には、そのことが分からなかった。そんな気持ちがあることを実感することはなかった。

ありがとう、と言ってもらえなかったことが、ありがとうと言っていなかったことを教えてくれた。

「霜介、大人になったな」と彼は言った。僕は首を振った。

「なれないよ。なんでも、うまくできない。やろうとすると失敗するんだ。今回も、こんなになっちゃったよ」

「でもな」と彼は言った。

「始めただろう。自分で何かをやったんだ。本当の気持ちって、自分で何かやってみないと分からないものだろう。分かるってのは、失敗じゃないだろう？」

「そうだね。痛い思いもしたけど」



「次は、落っこちないようにしてくれ。お前が庇<sup>かば</sup>った子どもさん、無事だったよ」

やっと叔父は微笑<sup>みずほ</sup>んでくれた。水帆ちゃんのことだろう。僕はホッとして、身体<sup>からだ</sup>の力が抜けて目を閉じた。急に眠<sup>ね</sup>気が襲<sup>おそ</sup>ってきた。

「お前の先生とか、お前の代わりにステージで頑張<sup>がんば</sup>ってくれた同僚<sup>どうりょう</sup>の女の子や友達から、また電話<sup>でんわ</sup>がかかってきそうだから、連絡<sup>れんらく</sup>してくるよ。お見舞<sup>みま</sup>いに来ると言っていた。とりあえず問題はなさそうだから、来てもらうことにするからな」

僕は目を閉じたまま「わかった」と答えた。

(砥上裕将『一線の湖』より)

## 問一

部A、Cの言葉の意味として、最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

### A 「他人行儀」

- ア 相手を丁重<sup>あつか</sup>に扱うこと
- イ 相手に親しみをこめて接すること
- ウ 相手に対してよそよそしくふるまうこと
- エ 相手を無視すること

### B 「いたたまれない」

- ア その場にいられないほどつらい
- イ 痛みにたえられない
- ウ さけることができない
- エ 嫌<sup>いや</sup>になるくらい大きい

### C 「ささいな」

- ア 価値が高く、重要な
- イ 日常的で、ありふれた
- ウ ごくわずかで、とるにたりない
- エ 考えるまでもない、当たり前

問二 ―― 部①「僕はその笑顔が苦手だった」とありますが、「その笑顔」から何が伝わってくるから「苦手」だと感じていますか。解答らんに合うように答えなさい。

問三 ―― 部②「右手は骨折、背骨やあばらも罅が入っている」とありますが、「僕」はどうしてこのようなけがをしたのですか。本文中からわかることをまとめて説明しなさい。

問四 空らん【×】に入る単語を考えて、漢字二字で答えなさい。

問五 ―― 部③「言葉が出てこない」のはなぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア「僕」はけがの影響で痛みがひどいため話することが難しく、「叔父」も「僕」の体の状態に気をつかっているから。  
イ「僕」と「叔父」は一年近くも出会っていないような関係で、二人の間で特に話すようなことが無いから。  
ウ「僕」には「叔父」に伝えるべき大切なことがあるはずなのに、それをありのまま伝えることができないから。  
エ「僕」は「叔父」の顔を見ると、両親が亡くなった時のことを強く思い出して、みじめな気になってしまうから。

問六 ―― 部④「僕が一番苦手なこと」とは何ですか。本文から五字以内でぬき出しなさい。

問七 ―― 部⑤「なぜだか、叔父が変なものを見る目でこちらを見ていた。訳がわからず、彼を見つめた。そして、瞳がゆっくりと潤んでいくのを見ていた」とありますが、この時の「叔父」の気持ちを説明しなさい。

問八 ―― 部の表現について説明したものとして、適当でないものを、次の中から一つ選び記号で答えなさい。

ア「白い天井、蛍光灯の眩しい光」という表現からは、視界にあるものを描写することによって「僕」が室内で仰向けにしているということを読み取ることができる。

イ「叔父がいるということは、余程のことが起きたのだと分かった」という表現からは、「僕」と「叔父」の親密でない関係を読み取ることができる。

ウ「霜介が……、か？」という表現からは、想定外の事態に混乱するとともに、「僕」の成長に喜びを感じている「叔父」の心情を読み

取ることができる。

エ 「急に眠気が襲ってきた」という表現からは、それまでの緊張きんちようから解き放たれ、「僕」が安心したということを読み取ることができる。

### 三、次の——部のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① お年玉をチョコキンする。
- ② 成功までのカテイをふりかえる。
- ③ 研究にジュウジする。
- ④ 問題解決にユウコウだ。
- ⑤ 計画をじつくりネる。
- ⑥ 身をコにして働く。

四、次の言葉と意味の似ている熟語を、後の語群の漢字の中から二字ずつ組み合わせて作りなさい。ただし、同じ漢字を二度以上用いてはいけません。

- ① 欠点      ② 同意      ③ 有名      ④ 天然      ⑤ 理由      ⑥ 出版

語群

|   |   |
|---|---|
| 決 | 名 |
| 著 | 所 |
| 短 | 自 |
| 然 | 賛 |
| 意 | 因 |
| 原 | 刊 |
| 点 | 成 |
| 行 | 負 |

五、次の――部にかかる部分はいくつありますか。例にならってそれぞれ数字で答えなさい。

例 私は 昨日 妹の 学校へ 行った。 答え（３）

- ① 私は これから 始まる 新しい 生活に 期待して、 学校へと 向かう 電車の中 一人で ぼほえんだ。
- ② 遠くの 山の さらに 向こうに 見える 大きな 黒い 雲に 向かって、 カラスは 飛んで行った。
- ③ 大きく はなやかな 絵が 会場の 中心に 設置されて どこか 静かだった 会場に 一気に はなやかさが 増した。

六、次の――部と同じ種類や用法のものを後のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

① 彼女はピアノを弾くのが上手だ。

- ア 兄の昨日作った料理を食べました。
- イ 山田さんの持っている本は新しい。
- ウ 君の来た時間を教えてください。
- エ 姉が速く走るのに驚いた。

② チクタクと古い時計が時をきざむ。

- ア だんだんと離れていく船を見送った。
- イ どんどんと太鼓をたたく音が聞こえる。
- ウ プンポンとよくおこる人だ。
- エ てんてんと続く足あと。

③ 二時間はかり勉強にはげんだ。

ア 少しばかりのお礼の品です。  
イ 今出かけたばかりだ。  
ウ きれいなばかりでは役に立たない。  
エ 今だとばかりに攻撃こうげきをする。

〔以下空白〕



解 答 用 紙 (一)

|      |  |
|------|--|
| 受験番号 |  |
| 総 点  |  |
| 評 点  |  |

一

問一

問二

a

b

c

d

問三

ㄱ

ㄴ

問四

i

ii

問五

I

II

III

IV

問六

二

問一

A

B

C

問二

が伝わってくるから。

問三

問四

解 答 用 紙 (二)

問五

問六

問七

問八

三

①

②

③

④

⑤

⑥

四

①

②

③

④

⑤

⑥

五

①

②

③

六

①

②

③

|      |  |
|------|--|
| 受験番号 |  |
| 評 点  |  |